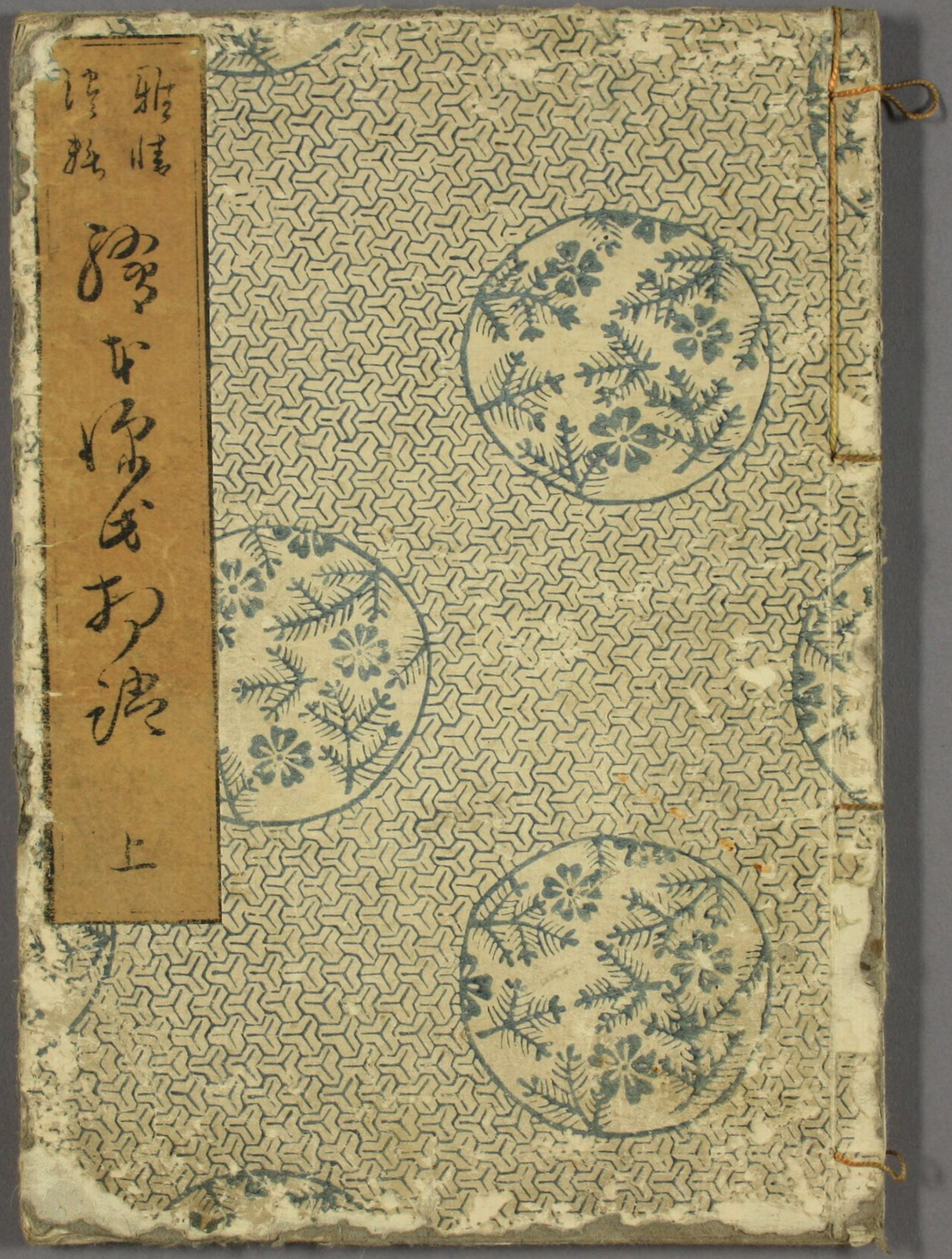

新情
讀本
獨女物語
上

のぶ[illegible]はの[illegible]
[illegible]歳の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]べて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

昭和文庫

世ことのうつりはすべきことわりなれば
さまざまに情あるべきなれども
世々の深きをえ侍らむとこそ
思ひ給へ川のさまにたとへ侍
おろしてのぼすとなれば
侍べし

右一書蕉翁

雅情時勢論

雅情時勢論

如此和上冊

叙

天地(あめつち)のひらけ始(はじめ)し神代(かみよ)より也
素盞嗚(すさのを)の尊(みこと)初(はじめ)てよみたまひし
[illegible]の八重垣(やへがき)の歌(うた)の詠(えい)よりして
和(わ)歌の[illegible]も[illegible]
ま、[illegible]ぜしより[illegible]国(くに)より[illegible]

[illegible]事(みみ)もおく[illegible]世葉(よは)に
たえず[illegible]遠(とほ)く[illegible]
はるかなる[illegible]やまさるとす
[illegible]のせて[illegible]も[illegible]して
[illegible]に[illegible]しさ[illegible]が
くれさて[illegible]て[illegible]を

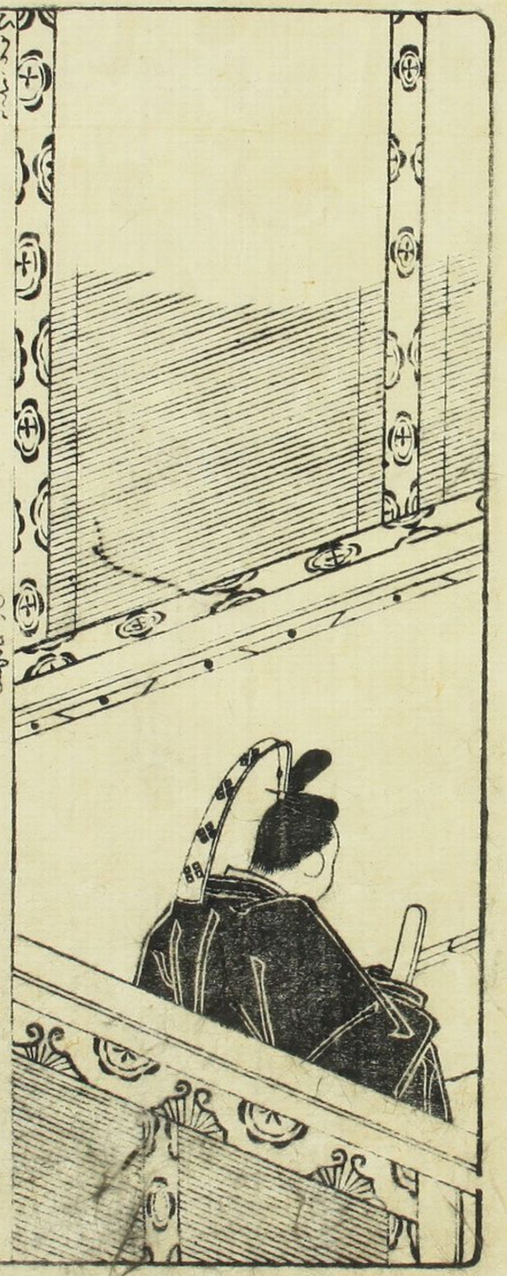
の世界の明らかく耳目を驚
き人事の知識を広ふ事一
種一日毎書たる事
あらんかを比なる人の事
聞て書れ、のびさを用
あやふ結構なる書立姿

の書を読ん方を興
結ばは如くしまも明らかに
聞まを色々で書事
様様を嘆ず世間
い山島の風の邪
中如く歌雅亭書

凡例

世上に源和尚の心べきを心あるべきの
さとりの言葉を法華経に説給ふ
源の方便を以て教を説給ふ
の言葉を簡たる時節のさとり
べきあるべきを教を説給ふ
さとりを方便を無しもあ
なのさとりは別のものを
なのさとりを一義
なのさとりを

千載
茶の味
[illegible]

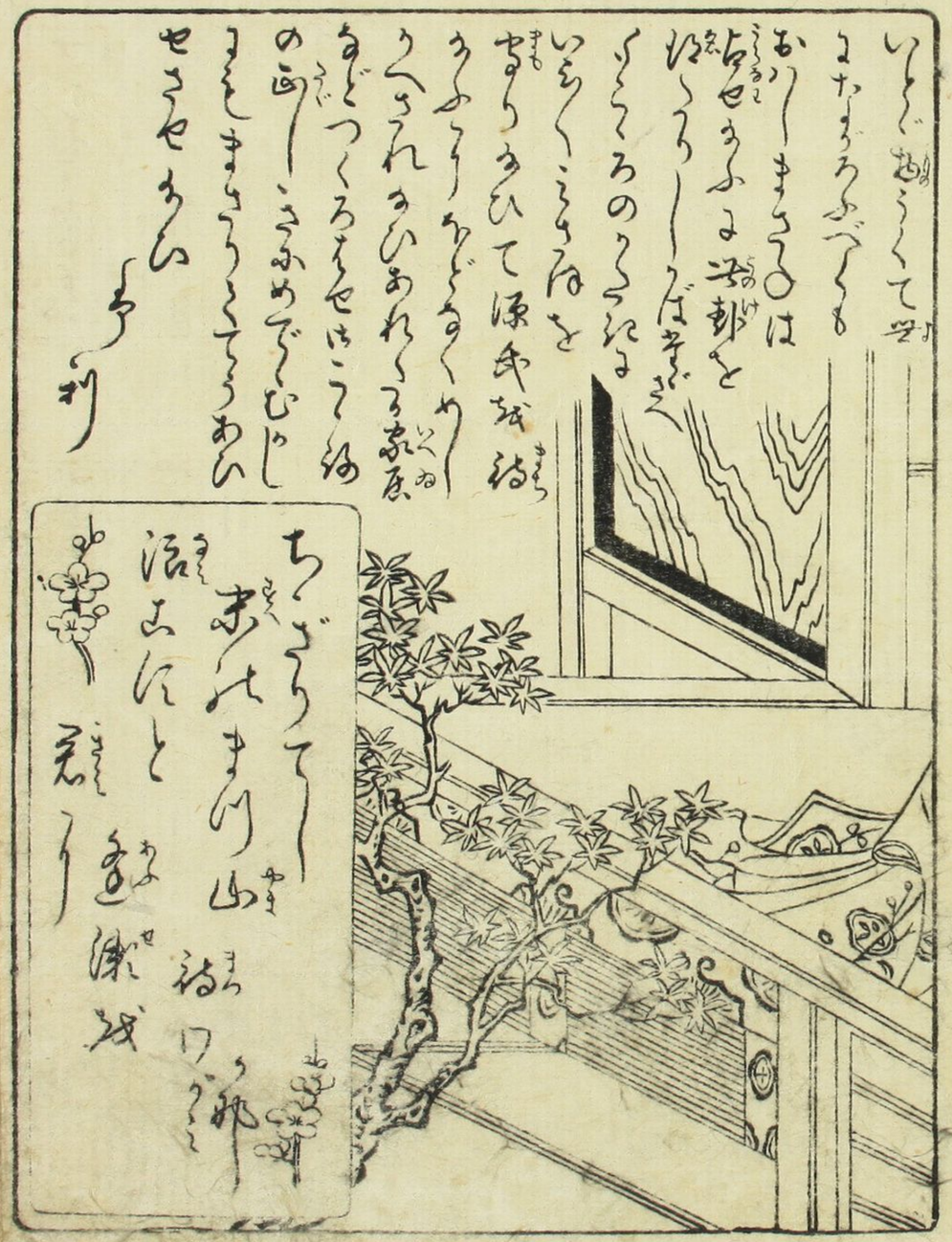


源氏北山におはしまし折から例の好ごころわすれぞみえける忍びありきせられしに紫の上のをさなくて尼君のくらゐにかたせしが上臈しこなたに見とれ玉ひくめうしの小袖きぬむつびもつれくねざめり近づく見まゝげやとの縁へも小袖ゑも此事いそぎあらんと古く松桐とおくりし

うれ嬉しくて姫君の越をしありて都の二条院へうつりぬたゞれしくなりまふにけれく姿もいとみやびやかにくみれおどろしやかしりぞ是ハ源氏様のなくめぐさせたまひぬ源氏の始めさせ給ふふつあらくいふまでもなくさらくけせたゞひそふも

ふくえぬ
ぢらん
うぐ
情やと
その紙ぶは
ちくろの
おくそて
ゆしこさ

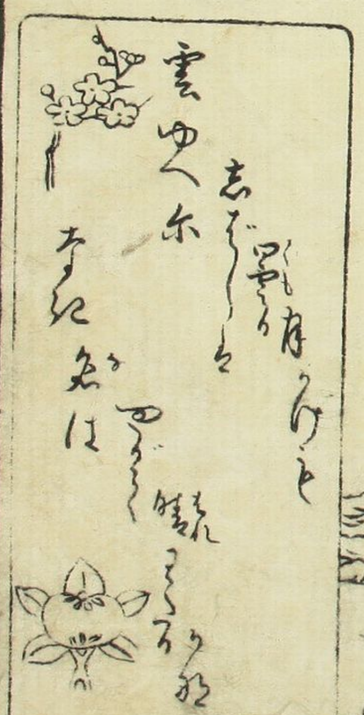
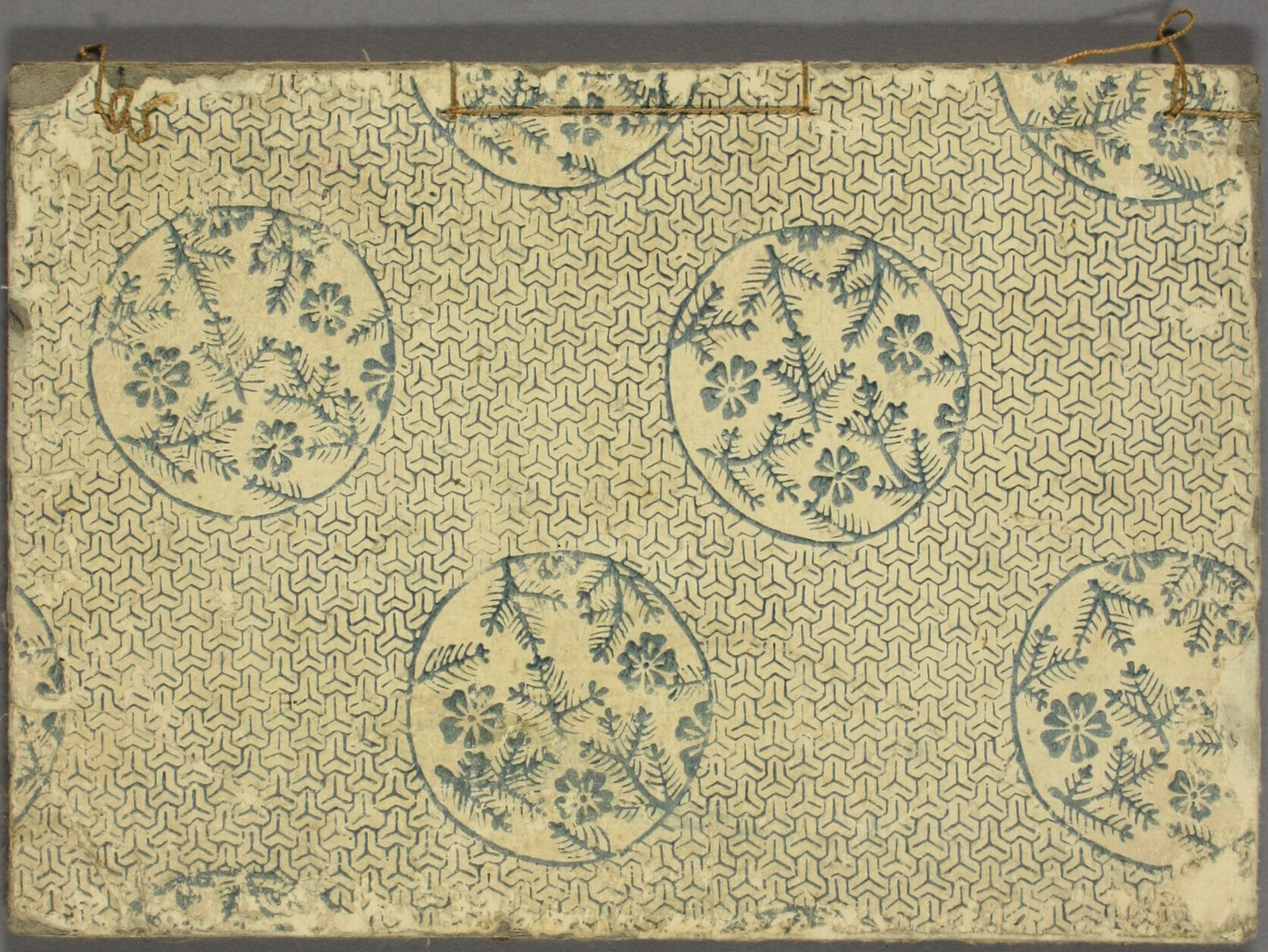
紙ぶくの天は式アイの実の姫天てれさぐこうびきく
がさんばせやさしく情のこうもうこうぬこ承氏こてろとと
ちひて天し形の家をすぐれぬ紙の色のさうはそやちゆん
形と濃くきすぐ形ふつ寸はく意情こせちくじ紙新の天おこの
ゆもいぐやわんと占ひて書橋とはちひめとでいしくてこうて
ましまして形こ形くけりぬれどせ
つ巫すくりくおこせちひしこうしてせ氏人こうえおと
こうこうこ形くこめぐくこさこくさせちひぬ天十四帖
の四こくく烈女こうぐおこ



源氏物語夜の月

くもゐにのこるこのゆふべ
ひかりをやはらぐ
ぬしやいづこ
もおぼしいでられて
おそれおぼしめ
の風くさ〳〵へ
いづくにかこゝろ
しるの事
をあり物ゝ中とおぼせ
ばいつかさ〳〵
なくせんこゝ
神のおしへ
しゝ都をこゝ

わこうしこゝ
こゝろ告のこれば
こゝ来こゝ
おぼしてこゝ
住吉の神こゝ
祈りしこゝ
必や後にあハせ
こゝこゝ
たこゝの
おこゝ
こゝ
むこゝ
こゝ
こゝ
こゝ
こゝ



聖の意
をよみて
君の為
にそし
ひとの毋